

# News Release

2020年2月27日

NITE ( ナイト )

独立行政法人製品評価技術基盤機構

法人番号 9011005001123

## 5年で157件、電子レンジで発生する事故 ～取扱説明書をよく読んで正しく使いましょう～

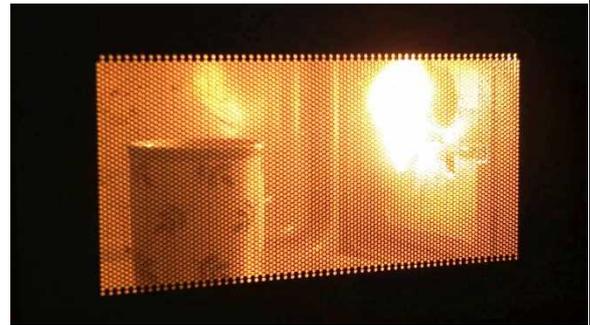
4月から新生活を迎える方々の準備がいよいよ本格的に始まります。家電量販店などではそういった方々に向け、電子レンジ、冷蔵庫、洗濯機、掃除機及び炊飯器がひとまとめとなった新生活用セットが販売され、盛り上がりを見せていますが、生活で役に立つこれらの製品による事故が毎年発生しています。

2014年度から2018年度の5年間にNITE（ナイト）に通知のあった製品事故情報<sup>※1</sup>では、電子レンジ、冷蔵庫、洗濯機、掃除機及び炊飯器の事故は538件<sup>※2</sup>ありました。その中で、電子レンジの事故は157件あり、使用者の誤使用や不注意による事故が他の製品よりも多く発生しています。

電子レンジは、汚れを放置したり、庫内に入れた物を加熱し過ぎたりすると、発火などの事故に至ります。取扱説明書に記載されている使用上の注意点をきちんと把握し、こまめに掃除するなどして、事故を未然に防ぎましょう。

### ■事件事例

- 電子レンジの庫内に食品かすなどの汚れが付着した状態で使用したため、食品かすが加熱され、炭化してスパークが発生し、出火した。
- 使用者が食品を長時間加熱したため、炭化し発煙に至り、周辺を汚損した。
- ゆで卵を加熱した際、加熱されたゆで卵が破裂し、衝撃で庫内のガラスプレートが破損した。



(写真) 電子レンジ庫内の汚れが発火する様子

### ■注意するポイント

- ・ 庫内の汚れが発火の原因となるので、庫内をこまめに掃除する。
- ・ ターンテーブルが回らない、タイマーが作動しないなど故障が認められたときは使用を中止する。
- ・ 取扱説明書や食品に記載されている加熱時間を確認し、これを守る。加熱時間がわからないものは温まり具合を確認しながら少しずつ加熱する。
- ・ 温める前に電子レンジに使用することが可能な食品や容器<sup>※3</sup>かを確認する。
- ・ 加熱する食品によっては、取り出した際の振動などで突然沸騰する事象<sup>※4</sup>が発生するため、加熱前によくかき混ぜ、加熱時間を短くして少しずつ加熱する。
- ・ リコール対象の電子レンジを所有している場合は、直ちに使用を中止し、事業者や販売店に連絡を取る。

### ■庫内で発火した場合の対処

- ・ ドアを開けると火が大きくなるので、電源プラグを抜き、火が消えるまでドアを開けない。
- ・ ドアのガラスは高温になっているので、水をかけない。急激にガラスの温度が下がることでガラスが割れる場合がある。

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。

(※2) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

(※3) P.8の「電子レンジに使用できるものとできないもの」参照。

(※4) かくはんや振動が少ない状態で加熱されると、液体が沸点を超えても沸騰しないことがある。これらは衝撃などをきっかけに突然激しい沸騰をしたりする。

## 1. 製品ごとの事故発生件数

図1に「製品ごとの事故発生原因別 事故発生件数」を示します。

製品ごとの事故発生原因を見ると、電子レンジの事故では、157件中31件（20%）が使用者の誤使用や不注意による事故です。洗濯機など他の製品と比較して、電子レンジでは誤使用による事故が多く発生しています。

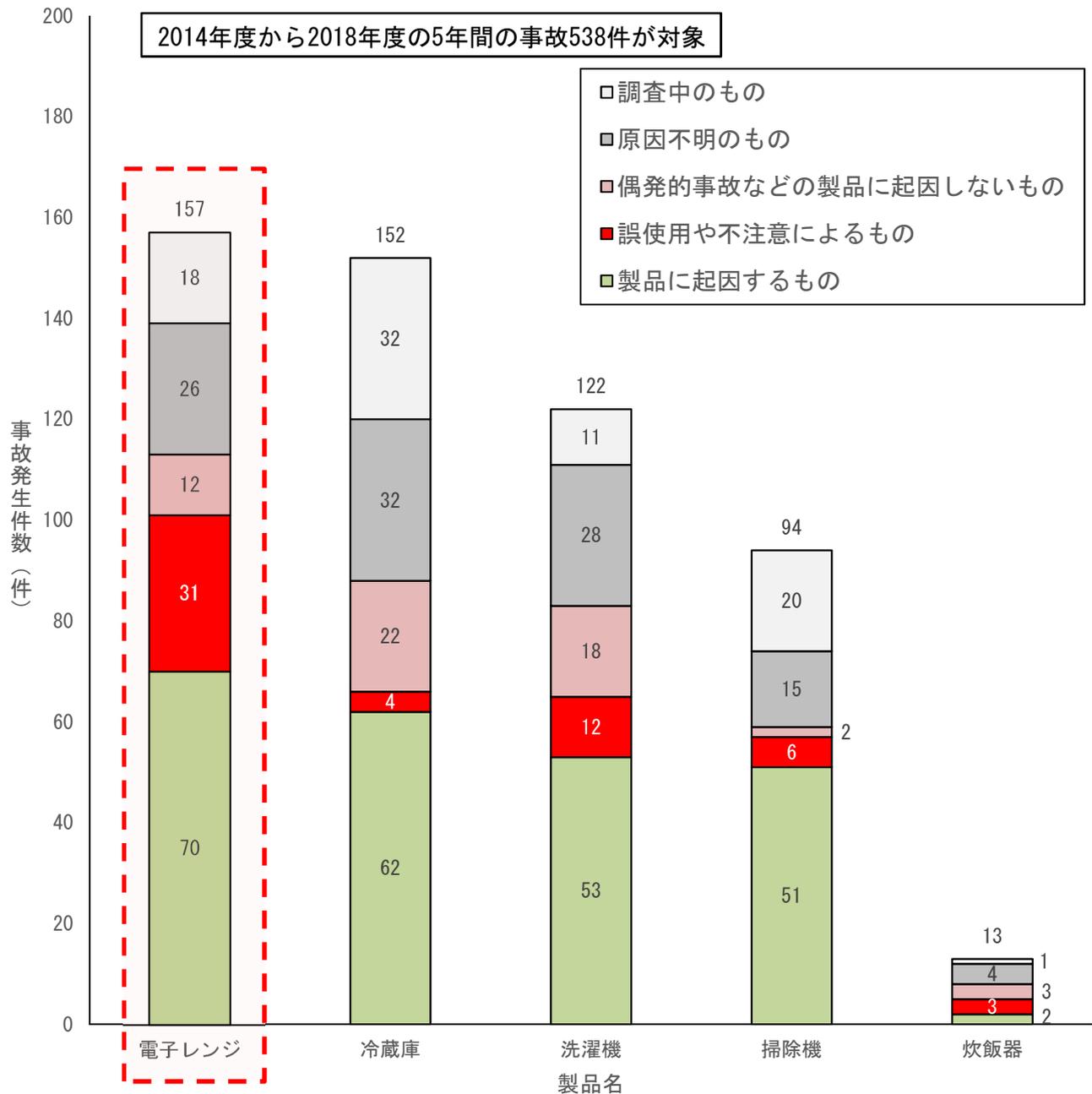


図1 製品ごとの事故発生原因別 事故発生件数

事故発生件数が近い冷蔵庫と事故発生原因で比較すると、電子レンジの誤使用や不注意による事故は冷蔵庫の8倍近く発生しています。電子レンジは他の4製品と比べて、誤使用や不注意による事故が発生しやすい製品です。

次ページからは電子レンジの事故について詳細を解説します。

## 2. 電子レンジの事故の詳細

### 2.1 事故発生原因別の事故発生割合

電子レンジの事故 157 件について、図 2 に「事故発生原因別の事故発生割合」を示します。

使用者の誤使用や不注意による事故が全体の 20%を占めています。

製品に起因する事故は 70 件（45%）発生しています。70 件中 28 件（40%）はリコール製品による事故です（2014 年度から 2018 年度の間に事故が発生したリコール対象製品の詳細は別紙 2 参照）。

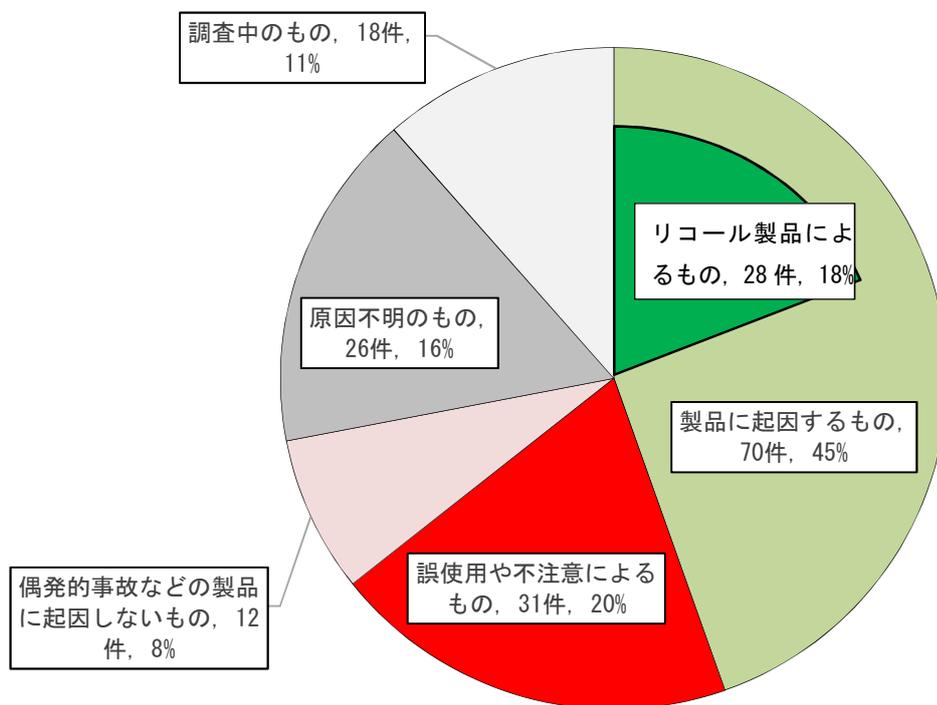


図 2 事故発生原因別の事故発生割合

## 2.2 事故事象ごとの被害状況

以下表1に電子レンジの誤使用や不注意による事故における「事故事象ごとの被害状況」を示します。電子レンジの誤使用や不注意による事故31件中20件(65%)が庫内に付着していた食品かすなどが加熱され炭化し、スパークして発煙・発火したものです。

表1 電子レンジの誤使用や不注意による事故における事故事象ごとの被害状況<sup>※5</sup>

事故発生状況	被害状況	物的被害		被害なし	総計
		拡大被害	製品破損		
	庫内に付着していた食品かすなどが加熱され炭化し、スパークして発熱・発火した	2 [ 2 ]	16 [ 9 ]	2 [ 0 ]	20 [ 11 ]
	故障したまま使い続けたため発火した	2 [ 2 ]	3 [ 3 ]		5 [ 5 ]
	加熱し過ぎたため炭化し、スパークして発煙・発火した	1 [ 1 ]	1 [ 0 ]		2 [ 1 ]
	加熱した食品(ゆで卵)が内圧の上昇により破裂した		1 [ 0 ]		1 [ 0 ]
	アルミホイル素材の製品を使用したことにより発火した	1 [ 1 ]			1 [ 1 ]
	食品を加熱中に、あふれた水分がモーター部分に浸入し、ショートした	1 [ 1 ]			1 [ 1 ]
	電源コードを破損させたためショートした	1 [ 0 ]			1 [ 0 ]
総計	事故件数 火災件数	8 [ 7 ]	21 [ 12 ]	2 [ 0 ]	31 [ 19 ]

(※5) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。[ ] は火災件数。

### 3. 電子レンジの誤使用や不注意により発生した事故の事例

(1) 付着した食品かすの発火事故

2019年2月（大阪府、年齢・性別不明、製品破損）

【事故の内容】

電子レンジを使用中、庫内から出火した。

【事故の原因】

庫内に食品かすなどの汚れが付着した状態で使用したため、食品かすが加熱され、炭化して焼損したものと考えられる。

(2) 加熱し過ぎたことによる発煙事故

2015年4月（神奈川県、80歳代・性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

電子レンジを使用中、温めていたご飯から煙が発生し、火災報知器が鳴動した。

【事故の原因】

使用者が食品を手動レンジモードで長時間加熱したため、発煙に至ったものと考えられる。なお、取扱説明書には、「手動レンジで加熱する場合は、設定時間を控えめにし、様子を見ながら加熱する。」旨、記載されている。

(3) 食品の破裂による事故

2018年11月（奈良県、70歳代・女性、製品破損）

【事故の内容】

電子レンジで温めていたところ、庫内で調理物が破裂し、庫内のガラスプレートが割れた。

【事故の原因】

ゆで卵を加熱したため、ゆで卵が破裂した衝撃により、庫内のガラスプレートが破損したものと考えられる。なお、「ゆで卵の加熱をしない」旨、取扱説明書に記載されていた。

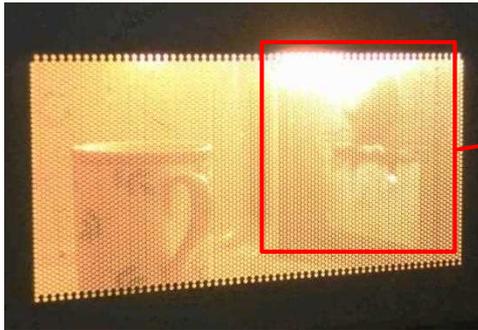
## 電子レンジの気を付けるポイント

### ○庫内をこまめに掃除する

電子レンジの庫内はこまめに掃除を行ってください。庫内やドアに食品かすが付着したまま使用すると、炭化してスパークし発火するおそれがあります。特に庫内カバー（右図赤枠）に付着した汚れは早めに取り除いてください。



（写真）電子レンジ庫内のカバーが汚れている様子



（写真）電子レンジの庫内のカバーに付着した汚れが炭化して発火

### ○故障した製品は使用を中止する

ターンテーブルが回らなくなったまま使用を続けたために発火した事故や、電源が入ったり切れたりを繰り返す状態で使い続けたために内部から発煙した事故が発生しています。ターンテーブルが回転しない、異臭や異音がするなど、異常・故障を確認した際は直ちに使用を中止し、電源プラグを抜いてください。

### ○加熱し過ぎに注意する

◆食品などを電子レンジで加熱しすぎると炭化し、発火する場合があります。食品の様子を見ながら少しずつ加熱することでこれらの事故を防ぐことができます。

◆水分が少ない食品（パンや芋など）は水分を多く含む食品よりも比較的早く炭化し、スパークして発火します。特に油分を含む食品は、加熱し過ぎた際に爆発的に燃焼するおそれがあるため、注意が必要です。

◆ふた付きの容器に入った食品や、少量（100g未満）の食品を自動加熱機能で加熱すると、正常に温度が検知されず加熱のし過ぎとなり、発火するおそれがあります。取扱説明書を読み、自動加熱できる食品の量や容器の形状を確認してください。



（写真）加熱し過ぎた肉まんが発火する様子

### ○加熱対象に注意する

◆ゆで卵などの電子レンジで温めることを禁止されている食品は、加熱した場合、内部の蒸気が抜けず圧力が上昇し、破裂に至ります。取扱説明書などに記載されている、電子レンジで温めてはいけないものを事前に確認しておきましょう。

◆容器や包装は電子レンジで加熱できるものとできないものがあります。電子レンジで加熱できない容器などを使用すると、破損や発火する場合があります。取扱説明書の記載を事前に確認しておきましょう。

## ○突然沸騰する現象に注意する

粘性のあるもの（カレー、シチュー、みそ汁など）を電子レンジで加熱する際、かくはんや振動が少ない状態で加熱すると、取り出した際の振動などで突然沸騰する現象が発生する場合があります。事前によくかき混ぜ、短時間の加熱を繰り返すことでこういった現象を防ぐことができます。水を温めた場合も類似の事象が発生することがあります。こちらでも短時間で加熱し、温まり具合を確認しながら加熱することで防ぐことができます。加熱し過ぎた場合は、少し時間（1～2分間）をおいてから庫内から取り出し、かき混ぜてください。

## 電子レンジで加熱してはいけない食品と注意すべき食品

食品	レンジ加熱
殻付き卵	<b>加熱してはいけません</b>
	一部に強い圧力がかかって破裂します。生卵の黄身（殻を割った状態）のままでも破裂する場合があります。必ず割り、ときほぐしてください。
ゆで卵（殻付き、殻なし）	<b>加熱してはいけません</b>
	固まった白身が殻の役割を果たし、破裂します。
栗、ぎんなんなど、殻のある食品	<b>殻付きのままでは加熱してはいけません</b>
	一部に強い圧力がかかって破裂します。殻をむくか、切れ目を入れてから加熱してください。
ソーセージ、明太子、イカなど、膜のある食品	<b>加熱時には注意してください</b>
	一部に強い圧力がかかって破裂します。切れ目を入れてから加熱してください。
カレー、シチュー、味噌汁などのとろみのある食品	<b>加熱時には注意してください</b>
	突然沸騰する場合があります。よくかき混ぜてから加熱を始め、少しずつ様子を見ながら加熱してください。
レトルトパックなど	<b>加熱してよいものとしてはいけないものがあります</b>
	外装などに記載されている調理方法を確認してください。

## 電子レンジに使用できるものとできないもの

容器の種類	レンジ加熱
耐熱性ガラス容器	<b>使えます</b>
	※ただし、ひび、傷のある器を使ったり、急熱、急冷すると割れることがあります。
耐熱性のないガラス容器	<b>使えません</b>
	※クリスタルガラス、カットガラス、強化ガラスなども使えません。
耐熱性プラスチック容器	<b>耐熱温度が 140℃以上のものが使えます</b>
	※ただし、電波で変形する物、砂糖・油分の多い料理など、高温になる食品には使えません。
その他プラスチック容器	<b>使えません</b>
	耐熱温度が 140℃未満のもの、電波で変質するものは使えません。 (例：スチロール、ポリエチレンなど)
ラップ	<b>耐熱温度が 140℃以上のものが使えます</b>
	※ただし、砂糖・油分の多い料理など、高温になる食品には使えません。
金属容器、金串、金網、アルミホイルなど	<b>原則として使えません</b>
	※ただし、アルミホイルは電波を反射する性質を利用して部分的に使うことがあります。(各製品の取扱説明書の記載をご確認ください)
陶器、磁器	<b>使えます</b>
	※ただし、ひび、傷、金銀の模様、内側に色絵のある器は、傷めたり、火花が出るので使えません。
漆器、竹・木・トウ・紙製品	<b>使えません</b>
	焦げたり、塗がはがれたり、ひび割れすることがあります。

参考資料：一般社団法人 日本電機工業会 <https://www.jema-net.or.jp/Japanese/ha/renji/safety.html>

## 庫内で発火した場合の対処

### ○庫内で発煙・発火した場合は、電源プラグを抜き、扉を開けない

庫内で発煙・発火したときは、電源プラグを抜いて、火が消えるまでドアを開けないでください。ドアを開けると空気が入り、炎が大きくなるため危険です。火が収まるまで様子を見ましょう。またドアのガラスは高温になっているため、水をかけないでください。急激にガラスの温度が下がることでガラスが割れ、けがをするおそれがあります。

## リコール製品による事故を防ぐために

電子レンジ、冷蔵庫、洗濯機、掃除機及び炊飯器の事故 538 件のうち、リコール製品による事故が 97 件ありました。

リコール情報は、新聞やダイレクトメールなどで繰り返し告知されている場合もあれば、事業者のホームページのみに掲載されている場合もあります。

お持ちの製品がリコール対象かどうかを確認していただき、事故を未然に防ぎましょう。

**リコール製品をお持ちの場合は、不具合が生じていなくても使用を中止し、お買い求めの販売店や製造・輸入事業者を確認や相談をしてください。**

消費者庁のリコール情報サイトにおいて、最新のリコール情報や、キーワードによるリコール情報の検索を行うことができます。

また、「リコール情報メールサービス」に登録することでリコール情報が提供されます。



<https://www.recall.caa.go.jp/index.php>



## お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 小田 泰由  
担当者 柿原、向井

- 記者説明会当日  
電話：03-3481-6566 FAX：03-3481-1870
- 記者説明会翌日以降  
電話：06-6612-2066 FAX：06-6612-1617

## 年度ごとの事故発生件数

2014 年度から 2018 年度までの 5 年間に NITE に通知された製品事故情報の中で、電子レンジ、冷蔵庫、洗濯機、掃除機及び炊飯器の事故について、図 3 に年度ごとの事故発生件数を示します。

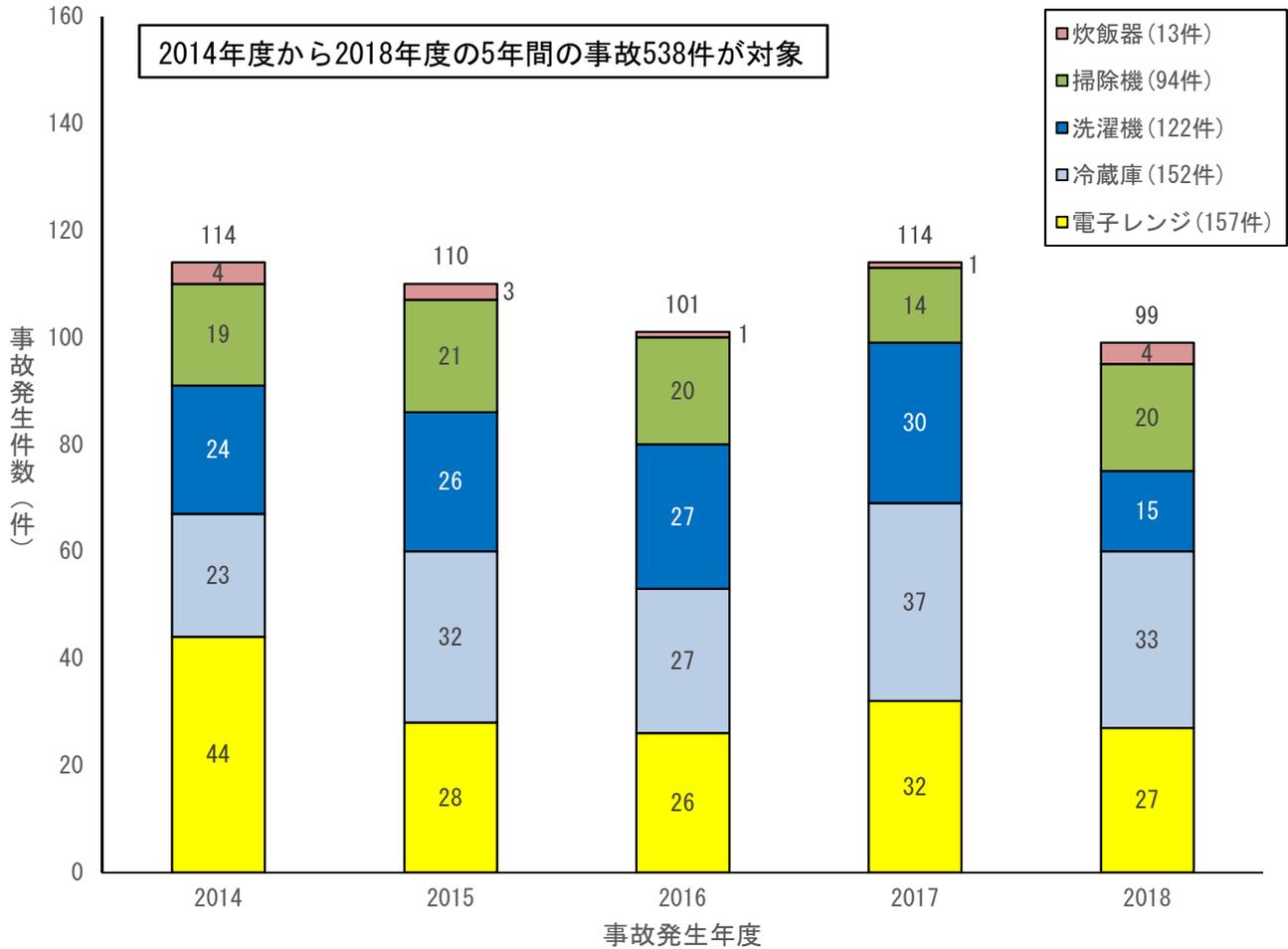


図 3 年度ごとの事故発生件数

記載されているリコール情報は2014年度から2018年度にかけて事故情報のあったもの。  
リコールされた製品かどうか品番等を確認し、該当すれば継続して使用せず、メーカーに連絡する。

公表日	品名	事業者名称	社告内容
1986/12/5	電子レンジ	日立アプライアンス株式会社 (法人番号:5050001023775)	<p>[製品名及び型式] MRO-5400/MRO-5400A/MRO-5000/ MRO-5800S/MRO-5510/MRO-5700S/MRO-5600/MR-500</p> <p>[販売等期間] 1979年7月～1983年8月(製造)</p> <p>[社告等の内容] 電子レンジの回転台底部にある回転軸に金属粉が一部混入し、回転軸に取り付けてある樹脂製部品が過熱して、機体内で発煙・発火に至る恐れがあることが判明。</p> <p>[対処方法] 無料点検及び修理</p> <p>[問い合わせ先等] ・フリーダイヤル:0120-312-111 ・FAX :0120-312-134 ・受付時間 :9:00～17:30(月～土)／9:00～17:00(日・祝日) 年末年始は休み／携帯電話、PHSからも利用可 <a href="https://kadenfan.hitachi.co.jp/support/information/mro2/">https://kadenfan.hitachi.co.jp/support/information/mro2/</a></p>
2003/9/2	電子レンジ	岩谷産業株式会社 (法人番号:8120001077357)	<p>[製品名及び型式] イワタニ単機能電子レンジ IM-574(97・98・99年製) IM-574S(98・99年製) IM-575(98・99・2000年製) IM-575S(99・2000年製)</p> <p>[販売等期間] 1997年03月～2000年10月</p> <p>[社告等の内容] 使用中にマイクロスイッチの不具合により、発煙・発火の恐れがあることが判明。 ※製造時期ラベル横に(検)シールが貼ってあるものは点検済みなので、連絡する必要はありません。</p> <p>[対処方法] 無償点検・修理</p> <p>[問い合わせ先等] フリーダイヤル:0120-00-9930 受付時間:9:00～17:00(土・日・祝日は除く)</p>
2007/5/31	電子レンジ	パナソニック株式会社 (法人番号:5010401079438)	<p>[製品名及び型式] 電子レンジ NE-A555、NE-A575、NE-AB50、NE-AC50、NE-AC60、NE-AT66、NE-AT70、 NE-AT80、NE-OT1、NE-OT2、NE-P300、NE-P500(12機種)</p> <p>[製造・販売期間] 1988年12月～1993年12月 製造</p> <p>[社告等の内容] 電子部品内部のはんだの亀裂により、発煙・発火に至る可能性があることが判明。</p> <p>[対処方法] 無料部品交換(修理が困難な場合は、代替品との交換、または引き取りの対応)</p> <p>[問い合わせ先等] 電子レンジ フリーダイヤル 0120-871-682 受付時間:24時間(土・日・祝日を含む) <a href="https://panasonic.co.jp/ap/info/important/product/index.htm#M02">https://panasonic.co.jp/ap/info/important/product/index.htm#M02</a></p>
2007/9/12	電子レンジ	小泉成器株式会社 (法人番号:3120001079011)	<p>[製品名及び型式] 単機能電子レンジ 1)KRD-0105 2)KRD-0106</p> <p>[販売等期間] 1)1997年3月～1999年9月(製造) 2)1997年3月～2000年7月(製造)</p> <p>[社告等の内容] マイクロスイッチの接合不具合により、使用中に発煙・発火に至る恐れがあることが判明。 *製造時期ラベル横に(検)シール貼付は点検済みですので、連絡は不要です。</p> <p>[対処方法] 無償修理(部品交換)</p> <p>[問い合わせ先等] フリーダイヤル 0120-551-494 受付時間:09:00～17:00(土・日・祝日及び年末年始・夏期休業日を除く) <a href="http://www.koizumiseiki.co.jp/support/important/post.html">http://www.koizumiseiki.co.jp/support/important/post.html</a></p>

公表日	品名	事業者名称	社告内容
2008/6/20	電子レンジ	三洋電機株式会社 (法人番号:1120001155854)	<p>[製品名及び型式]</p> <p>●全数対象の機種        下記の機種は、本体前面右下の機種名をご確認ください。        EMO-BC8 EMO-CH10 EMO-MVP7 EMO-SJ9        EMO-CH4 EMO-H40 EMO-S4 EMO-T5        EMO-CH5 EMO-H60 EMO-S5 EMO-T6        EMO-CH6 EMO-KDH1 EMO-S6 EMO-T7        EMO-CH7 EMO-ME5 EMO-S7 EMO-TH5        EMO-CH8 EMO-MVP5 EMO-S8 EMO-TH6        EMO-CH9 EMO-MVP6 EMO-S9 EMO-CH8FF※</p> <p>●製造番号により一部対象の機種        下記の機種は、本体右側面の機種名、製造番号をご確認ください。        EMO-CH3(HW) 対象製造番号:023001～025000        EMO-S3(HL) 対象製造番号:043501～051500        EMO-SH1(H) 対象製造番号:006001～009000</p> <p>※ Francfrancブランドのオープンレンジ「EMO-CH8FF」は、        弊社で製造しておりますので、同じく点検・修理させていただきます</p> <p>[製造期間]        2000年6月～2007年9月</p> <p>[社告等の内容]        当製品において、電源コード(本体内)の不具合により、オープン・グリル運転コースの使用時に部品の一部が発煙・発火する可能性のあることが判明。</p> <p>[対処方法]        無償点検・修理</p> <p>[問い合わせ先等]        オープンレンジ相談室        ・フリーダイヤル:0120-34-1105        ・受付時間:9:00～18:00(7月31日まで毎日)                  9:00～17:00(8月1日以降、土・日・祝日は除く)  <a href="https://www.panasonic.com/jp/support/sanyo/info/psemo080711.html">https://www.panasonic.com/jp/support/sanyo/info/psemo080711.html</a></p>